

児童自立生活援助事業 なごみハウス圓

平成 29 年度事業計画

重点課題

入所者の生育歴を踏まえ習癖・IQ検査・適性検査・職業適性検査等の各種検査を通して全体像の把握に努めます。それを踏まえた上、各ホーム生に適した支援計画を作成し、ホーム生と一緒に具体的な目標を決め、振り返りをしながら達成できるよう生活や就労の丁寧な支援に努め、自立につなげてまいります。

職員間及び関係諸機関との「報告・連絡・相談」を更に密にすることで、職員の対応能力を高めて参ります。

非常勤職員も含め全職員が、共通した支援が出来るよう、日々の記録・引継を大切にしていきます。また、支援の方向性が違う意見が提案された場合も、職員の意見・考えを丁寧に取り上げ、ホーム生の最善の利益をもとに対話を重ね全職員が納得いく支援に導いていきます。

「自立援助ホーム」の存在と活動を広く社会に認知して頂くべく報道関係等の協力を得てのPRに努めるとともに、市町村の福祉課や学校などへの積極的な広報活動を展開してまいります。

なごみハウス圓(通称「圓」)に入所しているホーム生にとって、相談の出来る職員がいる・食と住居が保障されている、退所してもいつでも訪れて相談に乗ってもらえることの出来る「家庭」であることを指向して参ります。

個性や主体性が尊重される生活

ホーム生一人一人の思いやわがままでない要望、こだわり等が出来るだけ尊重される環境が保障できるように配慮していきます。

規則は少なく、職員からの指示的・押しつけ的な決めごとは避けるようにホーム生と職員が対等な立場で一人の生活者として「どうしたらみんなが暮らしやすい環境になるか」を基本にした話合いと対話を大事にしていきます。

語れる環境 (子どもが意見や思いを述べやすい環境)

日頃からホーム生とコミュニケーションをとり、良好な人間関係づくりを努めます。

その為に、職員が常に聴く姿勢を持ち職員はホーム生のことを考え、抱えている悩みなどを誠実に聴くことを心がけ、いつでも求めに応じる姿勢を用意していることを伝えていきます。

自己肯定につながる環境づくり

特別なことを達成しなくても普通に出来ていることを受容肯定していきます。

誕生日・退所時などにささやかでも心のこもったお祝いの会やメッセージカードのプレゼントなどを行い記憶に残る嬉しい楽しい時間を持てるようにします。

葛藤を修復できるスキルカにつながる生活

受容すべきこと、譲ってはならないこと、厳しく伝えなければならない時を見極めてダメなことはダメと伝えます。

人権を侵害することや、法に触れる行為など違法と思われる行為の時は、受容的支持的な関わりだけでなく、対話を中心とした子どもとの真剣なぶつかり合いを持ちながら失敗をどのように解決、修復していったらよいかを考えさせたり一緒に考えたりしてその中で信頼関係を築いていきます。

丁寧で良質な生活環境

情緒・情操の豊かさにつながる環境を大切に考えていきます。

・食環境

温かいものを温かいうちに食べられるように配慮していきます。また食卓は囲むものであり、語らいを大切な場として考えていきます。

全員同じ食器ではなくマイ茶碗・マイ箸、マイカップなどを用意していきます。

色合い・盛り付け・デザートまで美味しく感じる創意工夫・心配りを大切にしていきます。

ホーム生の食事作りへの参加は、意欲の芽を育み自信につながることで積極的に声をかけていきます。

・住環境

ホーム生の部屋は、清潔感のあるくつろげて暮らしやすい環境になるように工夫していきます。

共同で使用するトイレ・浴室・台所・リビングは、何となく落ち着き癒される空間になるようにしていきます。

行事の写真を飾ったり、花や植物を飾ったり、窓を綺麗に磨くなど情緒・情操につながる創意工夫もしてきます。またトイレ・台所・洗面所に使用するタオルはいつも清潔に保ちます。

・衣環境

自分でおしゃれができるようになることが大切であり、年齢相応のおしゃれ感がもてるようにまた季節感に配慮でき、身だしなみを意識した装いが身に付くように職種や職場環境を意識できるように支援していきます。

就労支援

ホーム生が主体的に仕事を探すように促しますが、仕事探しの経験が乏しい者につい

では、ハローワークやインターネット上の求人サイトの利用など仕事を探す方法について職員がアドバイスをしていきます。場合によっては、ハローワークへの同行や履歴書作成の指導や面接にふさわしい服装の準備などの援助をしていきます。

ホーム生の能力や特性によっては、就職先の雇用主に一定の配慮をお願いしていきます。

そして定期的に就労先を訪問しホーム生の様子等を把握すると共に、様々な情報を得られるよう有効的な関係を築きホームと雇用主が連携してホーム生の勤務状況を見守っていきます。

離職に至った場合は、何故仕事が続かなかったのかを職員と共に振り返り、次の就労に活かせるようにしていきます。

社会人のスキルとして、挨拶の大切さ・時間厳守・報告・連絡・相談の徹底・身だしなみ・謝ることの大切さなどを、ホームでの生活の中で繰り返し指導すると共に職員自身の実践によって、その大切さをホーム生に伝えていきます。

ホームは、職場体験場所を確保するように努めます。

職員のチームワーク

ホーム生は、職員をよく観察しており考え方の違いから職員同士の関係が悪くなったりすると、安心できる環境が崩れることとなります。職員への信頼感が薄れる状況を作らず仲が良い状況よりも、職員同士の対話や意思疎通を図る努力やチームワークを大切しホーム生にとって職員が良いモデルになるようにしていきます。